



# 真龍小便り

【学校の教育目標】  
 ☆心と体をきたえる子  
 ☆美しい心をもつ子  
 ☆考えて行動する子  
 ☆生き生きと学ぶ子

No.8 令和4年9月30日発行

## 「救助」と「支援」のちがい

校長 齊藤直彦

子どもは、親や友達や先生などの他者とかかわりながら、たくさんのことを学び、成長していきます。でも、時には、両者のうち片方だけが嫌な思いを抱えてしまうような、「かかわり」もあります。年に2回実施される「いじめアンケート」で、「嫌な思いをしたことがありますか？」に「はい」と答えるようなかかわりです。

一般的な傾向として、嫌な思いをさせている側は、相手にそういう思いを抱かせていることに気が付いていないことがほとんどです。

9月上旬の全校朝会の冒頭で、「嫌なことをされたとき、どうしますか？」と聞くと、1年生の男の子が、「勇気をもってやめてと言う。」と答えてくれました。そこで、私のお話は終わっても良いぐらいのベストな回答でしたが、以下の3つのお願いをしました。



- ① 嫌なことをされたら、「やめて」と言う。
- ② 「やめて」と言ってもやめてくれないときは、先生に言う。
- ③ 「やめて」と言えないときも、先生に言う。

①の行動には、自分自身で解決しようという意思があります。では、②と③の行動は、自分自身で解決しようとはしていないのでしょうか？

いいえ、違います。②も③も、解決しようと思っているから先生に相談しているのです。

でも、相談された先生が、「それは、だめだ！先生がもうやめるように強く言ってあげるからね！」などと言って、先生が解決してしまうと、子ども自身で解決する場面を奪ってしまうことになります。このようなかかわり方を「救助」と呼びます。「救助」のかかわりをすると、「あなたには、解決できる能力がない。」と言っていることと同じことになってしまいます。

ですから、②や③のように相談されたときには、「あなたはどうしたいの？」と、まずは子どもに、「どのように解決したいのか？」を聞きます。そうすることで、解決の道筋を、子ども自身で決める「自己決定」につながっていきます。教師のこのようなかかわり方を「支援」と呼びます。

とは言っても、私たち大人（教師や保護者など）は、困っている子どもを見ると、つつい救助したくなります。でも、救助した側（大人）は、「助けてあげた！」という充実感があっても、救助された側（子ども）にとっては、せっかくの成長のチャンスを奪われてしまったことになります。

たまに、「子どもの意志を尊重して・・・」などという言葉が使われることがあります。「救助」ではなく、「支援」をすることが、「子どもの意思を尊重すること」につながるという考え方を、保護者の皆様とも共有しながら、子どもとかかわっていきたいと思っています。

日	曜	10月の主な行事
1	土	
2	日	
3	月	朝会 会場準備②
4	火	短縮日課 朝読書回収日 SC 来校
5	水	短縮日課
6	木	配本日 社会見学(5年) 読み聞かせ(3年)
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	短縮日課 会場準備③
12	水	短縮日課
13	木	学習発表会 (児童公開日)
14	金	短縮日課 会場準備④
15	土	学習発表会(一般公開日) 後片付
16	日	
17	月	色覚検査週間(～31日)
18	火	短縮日課 社会見学(6年)
19	水	短縮日課 クラブ④
20	木	児童朝会⑤
21	金	開校記念日
22	土	
23	日	
24	月	短縮日課 保護者面談① 交通安全指導日
25	火	短縮日課 交通安全指導日
26	水	短縮日課 委員会⑧
27	木	短縮日課 社会見学(3年) 保護者面談②
28	金	短縮日課 保護者面談③ 2計測・視力検査1・2年SC来校
29	土	
30	日	
31	月	短縮日課 保護者面談④

## 「ながら見守り」のお願い

児童の下校時刻に合わせて、また夏冬春休み中は日中家の外に出て、庭作業や掃除などを行いながら、同時に児童の見守りを行う「ながら見守り」への協力をお願い致します。

## 宿泊研修の様子から

9月21日(水)22日(木)の2日間、5年生が宿泊研修を行いました。宿泊先はネパール厚岸でした。この2日間で、子ども達は、着衣水泳や本町地区のフォトラリーなど、普段はできない体験を積むことができました。

フォトラリーのときにお供え山のチェックポイントを選択した子たちは、苦労しながら頂上までの長い避難階段を登り、まさしく厚岸の街を一望することで、厚岸町の街の特徴を捉えることができました。また、身支度や荷物の整理など自分のことは自分でする経験もしました。

この2日間の経験を、子ども達はこれからの学校生活に役立てながら生活していくことを願っています。



## 沖縄県の「組踊」体験の様子から…

9月12日(月)に、沖縄県の「組踊(くみおどり)伝承の会」の方をお招きし、5・6年生がワークショップを行いました。この「組踊」は、文化庁による文化芸術による子供育成推進事業に応募し、行われたものです。子ども達は、演者が舞う様子を見たり、実際に踊ったりと、「組踊」に親しむことができました。

今後は、11月9日(水)に行われる本公演を全校で観覧することとなっています。



## 北方領土学習

9月15日(木)に4年生を対象に、北方領土学習が行われました。子ども達が納沙布岬へ行き、北方領土を実際に見たり、北方領土の資料館でその歴史を学んだりしてきました。子ども達は、北方領土について詳しく学ぶことができました。

## マラソンチャレンジ! 実施中

9月20日(月)から「マラソンチャレンジ」が行われています。子ども達は、中休みや昼休みにグラウンドの周りを走っています。今年度の課題は、「3週間で全校児童が10周すること」となっています。その後、目標として、50周または100周に各自がチャレンジしていきます。

秋晴れの中、子ども達は各自のペースで爽快に走り、体力アップを図っています。

## 「傾聴」・「熟考」から「発信」へ

今年度は、「傾聴」「熟考」「発信」を重点に学習指導にあたっています。10月からは発信となります。この取組では「発信しやすい環境を整え、子ども達が話し方の基本を身に付けること」を目指します。

これからの時代、自分の考えを発信することはとても大切な力となります。この取り組みを通して、児童一人一人が自信を持ち、進んで発表できるようになることを願っています。

## よりよい授業づくりに向けて

現在学校では、よりよい授業づくりに向けて校内授業研究会を行っています。まずは、今月27日・28日の2日間、1・4・6年生の算数の授業の向上を、教職員相互で参観しました。そして、検証を重ねることで授業力向上に繋げ、子ども達一人一人の学力アップを図っています。

## 学習発表会に向けて

10月13日(水)15日(土)に行われる学習発表会のテーマが決まりました。

テーマ みんなが主役  
～ 一人一人の笑顔大切に ～

このテーマのもと、子ども達は、笑顔を大切にしながら、一人一人が活躍し、演技や演奏を披露し、一つの作品に仕上げていくこととなります。コロナ禍ではありますが、当日はぜひお越しになり、子ども達一人一人の頑張りをご覧ください。

## 人権教室が行われました

9月15日(木)に3・5年生を対象に、法務省人権擁護委員の方による人権教室が行われました。授業は、「人権」とは何かをテーマに行われました。

5年生では、「無人島に行くこととなり、自分達が必要なものは何か」についてグループごとで考える活動を行いました。それぞれのグループからは、食料やテント、ライターやナイフ、懐中電灯などが出されました。

この活動を通して、子ども達は「人が生きるとはどういうことか」について、あらためて考えるよい機会となりました。

## 真龍小学校便り おすすめ本(R4.10月号)

『おばけのケーキ屋さん』

絵・文 SAKAE(マイクロマガジン社)

真龍おはなし隊 山本志野

「ぼくはおばけ。ケーキさんをひらいている。ぼくは、ケーキを作るのが大好き! ふつうのおばけは、ただ人をおどろかすのが好きみたいだけど、ぼくはちょっとちがう。」

おいしいケーキを作ってそのケーキのおいしさでびっくりさせるという、ちょっと変わったおばけのお話。

とある日、ある女の子がおばけのケーキ屋さんに来ました。おばけ自慢のおいしいケーキを女の子に作って食べてもらいましたが・・・女の子の感想は、「うん、おいしい、だけど、パパの作るケーキと同じくらいかな?」

おばけはびっくり! そんなことを言われたのはおばけにとって初めて! 悔しいおばけはなんとか自分のケーキの方がおいしいと言わせたくて、月に一度お店に来てケーキを食べてもらうよう女の子に頼みます。しかし、何度ケーキを作っても「パパと同じくらいおいしいケーキ」と言う女の子。

そんなある日、女の子が遠い街へ引っ越してしまうことになってしまいました。そこでおばけのたった行動は・・・?

お話の結末を知ったら、きっと心が温くなるような・・・そんな絵本になっています。

ぜひ、親子で読んでみてください。

